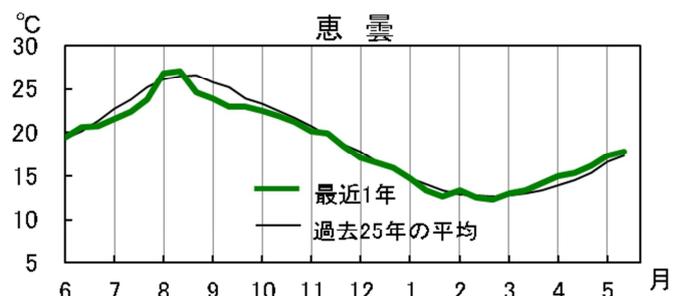




《4～5月の海況》

4月	月平均	平年差	評価
浜田	15.7℃	+1.0℃	かなり高め
恵曇	15.5℃	+1.0℃	かなり高め

沿岸定地水温は、浜田地区では4月は、上旬は「はなはだ高め」、中・下旬は「やや高め」となり、5月に入り上旬時点で「平年並み」で経過しています。恵曇地区では4月は、上旬は「かなり高め」、中・下旬は「やや高め」となり、3月に入り上旬時点で「やや高め」で経過しています。



《4月の漁況》

【中型まき網漁業】

浜田地区ではサバ類、マアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は12.5トンで平年並みとなりました。魚種別の動向（総漁獲量）は、サバ類は186トンで漁獲割合の約7割を占め、平年の1.4倍となりました。また、マアジは59トンで平年の約3割となりました。隠岐地区ではマアジ、マイワシ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は、45.2トンで平年を下回りました。魚種別の動向（総漁獲量）は、マアジは2,883トンで平年の4.2倍となったものの、マイワシは1,359トンで平年の約3割となりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではスルメイカ主体（全体の99%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は697kgで平年を上回りました。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではスルメイカ（全体の100%）のみが漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は145kgで平年並みとなりました。

【沖合底びき網漁業】

浜田地区ではアカムツ、ムシガレイ、ソウハチ主体の漁況で、1統1航海当たりの漁獲量は12.7トンで平年を上回りました。魚種別の動向（総漁獲量）は、アカムツは平年の3.7倍、ムシガレイは平年並み、ソウハチは平年の1.8倍でした。その他、カワハギ類は平年の3.7倍、キダイは平年の9割、マフグは平年の2割の水揚げでした。

【小型底びき網漁業】

大田地区（和江・久手）ではヒレグロ、ソウハチ主体の漁況で、1統1航海当たりの漁獲量は824kgで平年並の水揚げとなりました。魚種別の動向（総漁獲量）は、ヒレグロは平年の1.9倍、ソウハチは平年の7割でした。その他、アカガレイが平年の3.3倍、ニギスは平年の4割、アンコウは平年の6割、アカムツは平年の1.5倍、アナゴ・ハモ類は平年の6割、ヤナギムシガレイは平年並みの水揚げでした。

【定置網漁業】

出雲地区ではブリ、サワラ類、マアジ主体の漁況で、1統当たりの漁獲量は17.8トンで平年並みの水揚げとなりました。魚種別の動向（総漁獲量）は、ブリ、マアジはそれぞれ平年並みでしたが、サワラ類は平年の5.3倍と平年を上回りました。石見地区ではマアジ、サバ類主体の漁況で、1統当たりの漁獲量は11.0トンで平年の6割の水揚げとなりました。魚種別の動向（総漁獲量）は、先月に引き続き例年水揚げの少ないサバ類が3.1トンで平年の74倍、マアジは平年の6割の水揚げでした。隠岐地区ではブリ、マアジ主体の漁況で、1統当たりの漁獲量は20.9トンで平年の7割の水揚げとなりました。魚種別の動向（総漁獲量）は、ブリが平年の1.2倍、マアジが平年の7割で、総漁獲量の8割以上を占めました。

【釣・縄】

出雲地区ではブリが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は55kgで平年を上回りました。石見地区ではブリ、ヒラマサが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は19kgで平年を下回りました。隠岐地区ではブリ、カサゴ・メバル類、スルメイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は36kgで平年並みでした。

【平成 28 年 4 月の漁獲統計】

漁業種類	地区	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1 隻(統)1 航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	サバ類、マアジ	262 トン	42%	83%	12.5 トン	46%	80%	○
	隠岐	マアジ、マイワシ	5,242 トン	67%	56%	45.2 トン	59%	53%	▲
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ	73 トン	2486%	205%	698kg	287%	181%	◎
	西郷	スルメイカ	21 トン	136%	150%	145kg	102%	132%	○
沖合 底びき網	浜田	アカムツ、ムシガレイ、ソウハチ	317 トン	118%	110%	12.7 トン	99%	105%	○
小型底曳網	大田	ヒレグロ、ソウハチ	380 トン	102%	86%	824kg	112%	100%	○
定置網 (大型)	出雲	ブリ、サワラ類、マアジ	213 トン	96%	100%	17.8 トン	105%	106%	○
	石見	マアジ、サバ類	44 トン	47%	63%	11.0 トン	47%	63%	○
	隠岐	ブリ、マアジ	63 トン	36%	70%	20.9 トン	36%	70%	○
釣り・縄	出雲	ブリ	105 トン	134%	106%	55kg	122%	119%	◎
	石見	ブリ、ヒラマサ	31 トン	100%	64%	19kg	91%	75%	▲
	隠岐	ブリ、カサゴ・メバル類、スルメイカ	38 トン	173%	111%	36kg	131%	117%	○

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

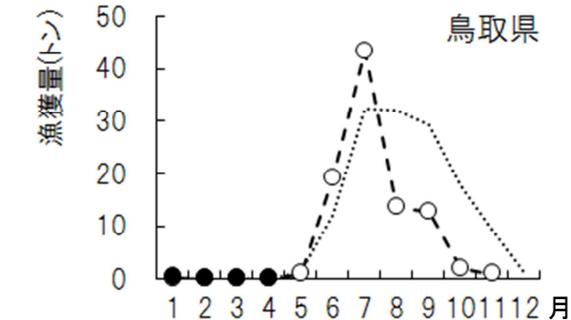
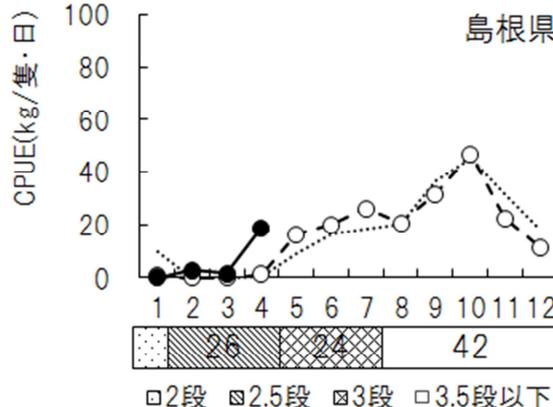
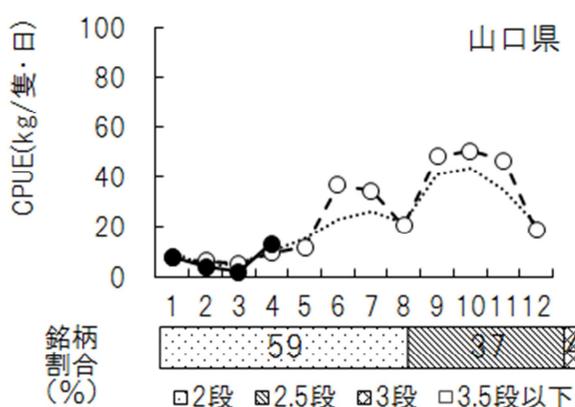
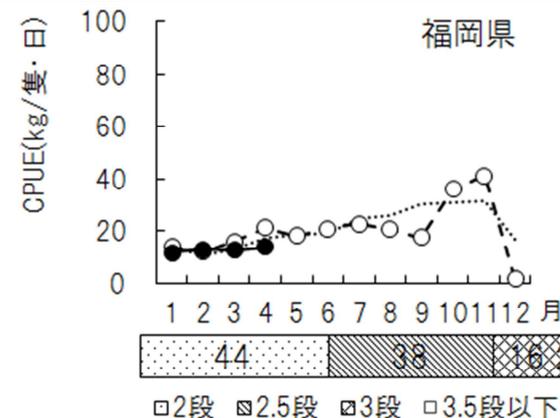
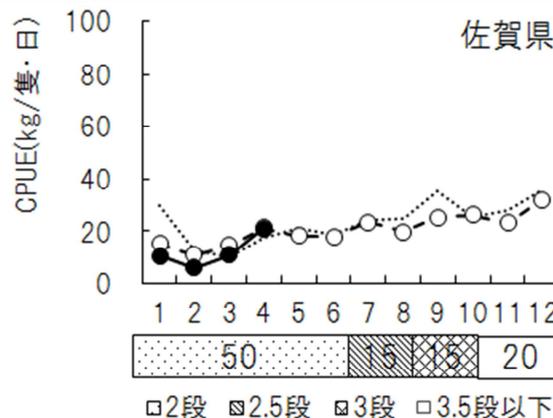
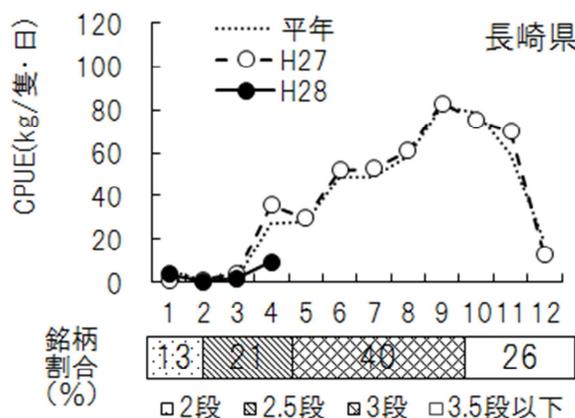
大型定置網漁業は 1 統当り漁獲量です。

【ケンサキイカ情報】

今月号から長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ（地方名：マイカ、シロイカ）の情報（各地の漁況と底層水温）を再開します。

I：4月のイカ釣り漁況 これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

長崎県	標本漁港の水揚げ量は、前年・平年を下回りました(前年比21%、平年比57%)。	佐賀県	標本漁港の水揚げ量は、前年・平年を下回りました(前年比60%、平年比80%)。	福岡県	代表港の漁獲量は、前年・平年を下回りました(前年比47%、平年比76%)。
山口県	漁獲量は西部地区では前年・平年を大きく上回りましたが、東部地区では前年・平年を大きく下回りました。	島根県	主要7港のケンサキイカの水揚げ量は597kgでした(前年比1270%、平年比2244%)。	鳥取県	主漁期ではなく本県沖では現在のところほとんど漁獲はありません



※平年は過去5年(H23～H27)の平均値

Ⅱ：5月上旬の底層水温

長崎県	5月の五島西沖底水温は15-17℃台で、前年に比べ高めで推移しました。	佐賀県	壱岐水道は17.7~18.1℃、対馬東水道は15.5~18.0℃、両海域とも平年に比べ甚だ高めでした。	福岡県	沖合域の底層水温は16~17℃台とやや高め~甚だ高めとなっています。
山口県	沖合の冷水域を除き、12~16℃台で、概ね平年並みからやや高めでした。	島根県	島根県沖の陸棚上の底層水温は、水深80~180mが15.5~15.8℃、それ以深が1.5~3.3℃でした。	鳥取県	鳥取県沖、隠岐諸島周辺海域の水深100mの水温は15℃前後でした。

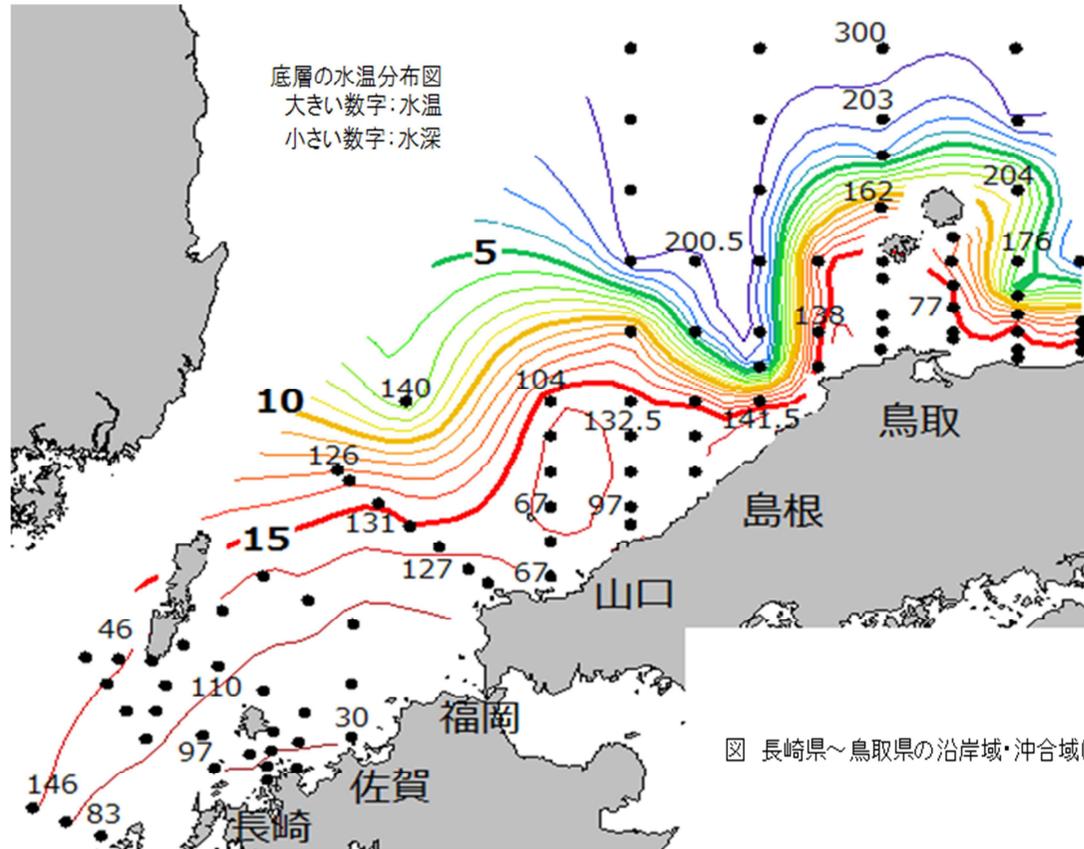


図 長崎県~鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図